



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)  
日曜日 7:00am (修道院のミサ)、9:30am



## 「ともに考え、決断する」ために

主任司祭 小西 広志 神父

「霊における会話」について、教区ニュースの紙面で二回にわたってお話ししてきました。1回目は、真ん中におられる主イエス・キリストのおかげで「霊における会話」を通じて人の集いである共同体が生まれるとお伝えしました。2回目は、その共同体が「ともに担う」共同体であることに注目しました。3回目の今月は「霊における会話」を用いて、「ともに考え、決断する」ことが可能となることについて少しお話ししましょう。

ところで、毎年、初夏の頃に聖マチア（マティア）使徒の祝日（5月14日）を迎えると思えば巡らすことがあります。それは、「なぜ、使徒たちはくじ引きでマチアを選んだのだろう」、「なぜ、使徒たちは聖霊降臨まで待てなかったのだろう」という疑問です。『使徒言行録』には次のようにあります。「二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった」（使1章26節）

ユダの裏切りは使徒たちにとってはスキャンダルだったのでしょう。仲間が一人欠けた彼らは、イスラエルの12部族を象徴する12人にこだわったのかもしれませんが。彼らは使徒を新たに選ぶにあたり「いつも一緒にいた者」（22節）という基準を設定しました。そして、その使命は「主の復活の証人」（同）になることでした。結果、バルサバと呼ばれたヨセフ、そしてマティアが候補者にあげられて、くじ引きでマティアが選ばれたのです。くじを引くのは神のみ旨を知るためになされるもので、聖書には時々登場します。しかし、マティアの選出が、くじ引きがなされた最後だったのは興味深いです。それ以降、くじ引きの記述は新約聖書には見当たらないです。

マティア選出のすぐ後に、聖霊降臨の出来事が続きます。聖霊降臨は使徒たちに新たな決断の方法を教えたのかもしれませんが。それは、よく祈って、意見を交換して、ともに決断するという方法です。そのよい例がエルサレムでの使徒会議でした（使15章参照）。この会議についての聖書からの引用は、ここ10年ぐらい教会の「シノドス性」を考える際によく使われています。確かに教会はその始まりの頃から、ともに祈って、ともに考え、ともに決断する方式を採用してきたのです。

「霊における会話」では、一人ひとりが祈ったことを分かち合います。洗礼を受けてキリスト者としていた方には聖霊の恵みがあふれています。「信仰のセンス」があります。ですから、一人ひとりの祈りは尊いものです。高級な祈りや低級な祈りなどあり得ません。祈りのすべては聖霊の働きを通じてなされた神のわざです。それを「霊における会話」で兄弟姉妹に明け渡すのです。祈りに耳を傾けた結果、他の人のところにある聖霊が響き合います。こうして、「霊における会話」は聖霊の息吹のなかでなされるのです。

聖霊は教会を導きます。聖霊は信者の一人ひとりを導きます。「思いのままに吹く」（ヨハ3章8節）風である聖霊に共同体が身を委ねたときに、聖霊に共同体の一人ひとりが「明け渡した」ときに、新たな解決の方向性が示唆されます。これが「霊における会話」の終着点です。こうして、会話に参加していた人々は、お互いに強い結びつきを感じるでしょう。「わたしたち」という意識を持てるようになるでしょう。

昨年シノドス 世界代表司教会議 第16回通常総会 第1会期に参加された菊地大司教さまが、「霊における会話」での体験を、「霊における会話をしたおかげで、会話の前の自分の考えと会話の後の自分の考えが大きく変わった経験をした」とお話をくださったのは印象深かったです。「霊における会話」はわたしたちを自由にし、新たな決断、新たな歩みへといざなってくれるのです。

くじ引きをした使徒たちは、「くじ」というしるししか思いつかなかったのでしょうか。また聖書の原文をよく読むと、ユダはどうやら「くじ」によって奉仕の任務に就いていたことがうかがえます（使1章17節参照 新共同訳聖書では未訳）ので、同じようにくじ引きでマチアを選んだのかもしれませんが。一読すると使徒たちの思惑による選出のようですが、彼らは「この奉仕と使徒の職務を継がせるためです」（25節 フランススコ会訳）と祈っています。祈りを通じて自分たちに課せられた二つの使命、すなわち人々に仕えること、そして、復活した主イエス・キリストの代理者としてあり続けることに気づいたのだと思います。聖霊は人間の想いをはるかに超えて、しかも、人間に行くべき道、使命を与えてくださるのです。